

里山自然公園

N03



発行 信太山に里山自然公園を求める連絡会

連絡先 信太の森FANクラブ 0725-44-8404

Email hanaizm@ares.eonet.ne.jp

「信太山丘陵を守る市民の集い」に130人が結集 保全・活用について熱く討論 「信太山に里山自然公園を求める連絡会」を結成

12月5日(日)、和泉市立信太小学校体育館で「信太山丘陵を守る市民の集い」が開催されました。

和泉市は今年9月、「和泉再生プラン」を発表し、平成25年度より「北部地域公共施設事業」(通称庁内ではSゾーンという)の凍結を解除し、事業化をすすめるという発表を行いました。これに対し、信太山丘陵を開発から守り、生物多様性豊かな自然を守ろうと地元を含め在阪の13団体が呼びかけたものです。

参加者130名を超える

当日は12月最初の日曜日、地元校区では「夢サポート」という小中学校合同の親子を対象とした催しがあり、市内でもいくつかの催しが重なり参加が少ないのではないかと懸念がありましたが、開催時刻が近づくと次々と参加者が集まり、当初準備した椅子が足りなくなり追加するほどとなりました。

参加票で確認されたのが丁度130名でしたが、受付時、参加票を未記入の参加者もあったとの報告もあり140名前後の出席があったと思われます。



日 程

- 1, 基調講演 「信太山丘陵の保全と活用」
石井 実(関西自然保護機構会長)
- 2, レポート
 - a 里山自然公園構想 花田茂義
 - b 市財政と信太山丘陵の開発計画 小林昌子
 - c 学校教育と自然との関わり 本田悦義
- 3, パネルディスカッション・質疑、討論
司会 高田直俊(大阪自然環境保全協会会長)

信太山に里山自然公園を求める連絡会結成

集会は、基調講演、レポート、パネルディスカッションと密度のあるプログラムでしたが参加者は最後まで熱心に聴き、質疑・討論に参加しました。集会終了後、「信太山に里山自然公園を求める連絡会」の結成総会があり、規約の決定、役員を選出などが行われました。

①基調講演：「信太山丘陵の保全と活用」

石井 実（関西自然保護機構会長・大阪府立大学
大学院教授）

—歴史の偶然の中で奇跡的に残った自然—

「信太山丘陵は、きわめてユニークなものではないにしても都市近郊に『よくぞ残された貴重な存在』と定義され、「古代からの人々の営み、長い歴史に育まれた文化的な資産の点在、明治以降

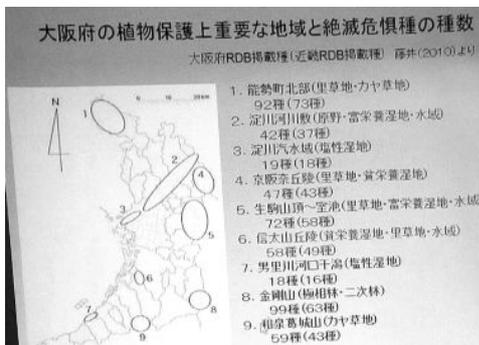


の陸軍・自衛隊の演習場としての活用などが丘陵全体として開発の波から良く守られてきた。」と述べられ、「この地域の自然が大きな開発から免れて今日まで残されたのは、このような歴史の偶然によるものであった。」と語られた。

昆虫学者の石井先生から聞く「歴史の偶然」という文学的な表現が大変新鮮に響いた。多分、聴衆の多くの心に響いたのでないだろうか。事実、後でレポートされた小林昌子議員は早速この言葉を報告の中で使われた。

—大阪のホットスポットの一つ—

「信太山丘陵は、田園の風景が広がり、近畿地方の低地から失われつつある里山的な貴重な動植物が多く温存されており大阪の『生物多様性ホットスポット』の一つとなっている。」



そして、「多くの里山と同様、近年急激に変貌し、そこに生息する野生生物の衰退が進行している。」

「信太山丘陵の特徴的な自然は湧水湿地であり、

そこに、サギソウやトキソウ、コモウセンゴケなど湿地性植物が自生し、ハッチョウトンボの生息地でもあった。しかし、樹林の伸長と林床のネザサの繁茂によりこれらの動植物の生息環境は悪化している。」

さらに、「動植物の乱獲、産業廃棄物、樹木の伐採、土地の埋め立て、道路建設など丘陵地全域で大きな変化進行している。」そのうえ、「等価交換した16haにスポーツ・レクリエーション公園を整備する計画を和泉市が打ち出している。」

—SATOYAMA イニシアチブ 智恵を絞り全国のモデルに一

「名古屋で開かれたCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）において、政府は国際社会に『SATOYAMA イニシアチブ』を提唱した。」これは、「日本の里地里山のような、持続的に資源を利用しながら、人との関わりの中で維持されてきた二次的な自然が、生物多様性の保全にも重要であることをアピールしたものである。」

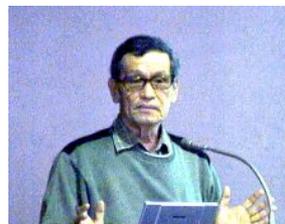
政府も「農水省、文化庁、国土交通省などともに検討し、国民的運動として展開するという行動計画を発表している。」

「関係者が智恵を絞り、全国のモデルとなるようなやり方で、人と生き物がにぎわう信太山の自然を復活し、後世に伝えたいものである。」と結ばれた。

②レポート

1、「信太山里山自然公園構想」

花田茂義（信太の森FANクラブ）



和泉市が信太山の演習場に16haの土地を取得した経緯や該当地が信太山丘陵でも最も貴重な草原や湧水湿地を含ん

でいること、予定地に生息するサギソウなどの絶滅危惧種など稀少生物の紹介がありました。そして、「スポーツ施設などの建設による回復不可能な破壊を避け、『里山自然公園』として保全と活用を図ることこそが、生物多様性を保全しようとする国際的な課題につながり、国や地方の財政危

機の中で考えられる唯一のものではないか。」と語られ、また、市との交渉経過の報告があり、「H23年度と24年度にかけて検討する。自然保護の重要性はよく分かっている。今までの経緯もあるので100%自然保護でというわけにもいかない。市民の要望もふまえながら十分検討したい。」という直近の市長見解が紹介されました。また、「まさにこれから綱引きの状況となります。力を合わせていけば里山自然公園構想も夢ではない。」と話題提供がありました。

2、「市財政と信太山丘陵の開発計画」

小林昌子（和泉市議員）

「和泉市の財政状況はきびしく、総務省の資料によると和泉市と規模が類似している全国29の地方公共団体の中で。経常収支比率は最下位であり、大阪府下31市の中でも20位以下になる。」そうした財政の再建計画として「和泉再生プラン」が策定されました。きびしい財政状況の中で「北部公共施設事業」が復活してきたのは、「土地開発公社」健全化を求める国や府の流れに従い土地開発公社を身軽にさせるという位置づけからです。（*現在、市有地16haは土地開発公社



所有地となっており演習場内の民有地を購入し自衛隊と等価交換した費用約20億円＝利子を含み＝は開発公社の負債となっている。事業化に際し開発公社から

市が土地を買い上げることを意味する)

「そもそもこの事業は演習場周辺対策の補助を見込んで計画されたもので、補助がなければスポーツ施設構想はなかったと思われる。」「当初の計画では野球場は7億円を要してプロ野球でも通用する程の規模でその広さに驚いた。」

また、市長選での公開質問状やその後の交渉の席などでの市長の見解に関し「軸足が定まっていなく残念である」と評されました。

「スポーツ施設は必要なら他の地域でも作ることできる。」「私たちは、信太山丘陵を先人から受け継いで次の世代にバトンタッチしていく責務がある。皆さんと力を合わせて活動していき

い。」「里山自然公園構想でも土地代は必要だが、スポーツ施設は施設費が数十億必要であり財政上無理だ。」「たとえ、豊かな財政であってもこの地にスポーツ施設を建てることはしてはいけない。」と提起されました。

3、「学校教育と自然との関わり」

本田悦義（信太中学校教諭）



「こどもの成長にとってまわりの環境は大きな役割をはたし、こどもたちは多くのことを自発的に学んでい

く。」と語られ、自らの生き立ちを「和泉の南部、横山で生まれ育った。榎尾川が流れ、寺があり、田んぼがあり竹林があった。まさに里山の地で育った。」「年齢もまちまちの子が毎日集まって違った遊びをした。春は山菜採り、夏は榎尾川で水浴びや魚獲りをした。」と語られ、「こどもの頃自然の中での遊びを通して、自然界の環境や生物の多様性を学んでいたのである」「もったいない MOTTINAI」「がまん GAMMAN」といったことも学んでいった」と振り返られた。

そうした体験が教師として赴任した学校でこどもたちにふるさとの自然に関心を持ってもらおうと、十数年にわたる「地域の自然を探る」をテーマにした実践を理科クラブのこどもたちと行い、その活動記録は第1回小中学校全国環境教育賞優秀賞を授けられた。

「学校教育や社会教育だけではこどもの健全な成長のすべてを負うことは不可能である、こどもたち自身が自由に学ぶことのできる良好な環境こそ大切である。」「信太山丘陵にはここにしかない貴重な自然環境がまだ残されている。この環境をこどもたちに残し、こどもたちが自由に良好な自然から学べることを保障しなければならない。」と語られた。

今年の4月に信太中学校に赴任され、学校の庭園にある人工池に絶滅危惧種を含む多様な生物が生息していることを発見し、理科クラブのこどもたちと観察してきた一端を紹介された。

③パネルディスカッション：

質疑・意見交換

コーディネーター 高田直俊(大阪自然環境
保全協会会長)



パネラー (石井・花
田・小林・本田)

高田「講演・報告された方で言い落としたことからどうぞ」

花田「小林議員にお聞きしたいのですが、防衛省の補助についてですが、当初約束した土地は1/2 建物2/3ということは、かなり時も経ち、政権が交代し国の財政も逼迫しているときに今も生きてると云うことでしょうか？」

小林「私もその点が気になったので担当課に確認してきました。担当者は『信太山の自衛隊に確認し、約束は生きている。ただし、図面を見せてもらわないことには正式には回答できない。』とのことでした。従って和泉市は約束は生きているという認識ですすめたいと云うことでした。」

本田「こどもたちに自然観・価値観をどう育てていくかということだと思っています。こどもが自然の中で育っていく中で、自然が大事だと言うことは理屈ではなく体で感じていくと思います。将来、地球環境を守ってくれる人に育てたい、自然からの恵みを永遠に享受できる様に行動できるという価値観を育てたいと思っています。」

高田「里山自然公園として残ったとして、貧栄養の湿地をどのように維持できるのかという問題がある。宝塚市でも丸山湿地を保全しているが木を伐ってもそこに積み上げ、湿地の外に取り出せていない。富栄養化のもととなっている。こうした問題について石井先生どうですか？」

石井「草が資源だった頃と今は違うと思う。草がなければ生きていけなかった。今では分からないですが、牛や馬がいなければ何もできな

かったし、肥料にしたり茅葺き屋根だったりしていた。そう考えると草ぼうぼうのところはあまりなかったと思われる。信太山でも周りに草を必要とする人々がたくさん住んでいた。では、今の時代に貧栄養の湿地を守れるかというとなかなか難しい。三草山で保全事業をしてきたが伐った木や草を持ち出せなく山全体がメタボになっている。木や草、枯れ葉をわれわれがもう1回使うようにしなければなりません。」



高田「淀川の河川敷でも草を刈り取ってそのまま腐らすというやり方をやっている、それをやると富栄養化してミミズが出る、土が柔らかくなり植生も変わる。貧栄養で育つイネ科の植物をどう残すかという問題がある。」

石井「人々は里山から資源を搾取していたというべきでしょう。そういう状態を今再現できるかということになるでしょう。」

高田「北摂では遷移がすすみ森を形成している。生息する動物や野鳥も変わってきている。それもいいと思うが、ここ(信太山)では貧栄養の湿地を保全しなければならない。かって、湿地の草も刈り取ったのでしょうか？」

石井「丈の低い草地を守ろうとすると草を刈らねばならない。その際、希少種もすべて刈り取られるが結局守られることになる。」

高田「サギソウやトキソウの湿地も枝を払い、草を刈り、光をあてれば元に戻せる可能性があるということでしょうか？」

石井「そろそろ年限が限られていると言われていいる。里山の木は切れば再生されるが、大木になるとそれは分からないといわれている。また、埋蔵されている種子の有効期限もある。躊躇して、上の刈る時期を遅らせると折角のチャンスを失ってしまうかも知れない。この

意思決定が大切だ。」

高田「低地の湿地は絶えず破壊の危機に瀕している。比較的うまく進んだのが敦賀の中池見湿地だ。大阪でサギソウ等の咲く湿地は他にありますか？」

石井「能勢と四条畷と信太山が大阪の三大湿地と云われている」

高田「防衛省の補助について、かつて北海道の長沼では当初の計画が随分縮小した。和泉の場合状況はどうでしょう？市の希望はあるでしょうか事業仕分けなどでどうでしょう？」

小林「議員の中には、補助がもらえてできるのであれば信太山にスポーツ施設も致し方ないかなという方もいるし、いや、自然保護が大事だという者もいる。市長は信太山が大事だと云うことを公開しているし、学者、研究者、市民グループなど入れて検討することも約束しているので、われわれがどれだけスポーツ構想でない方向に持って行けるか、この1年半が大事だ。大事な自然を壊して周りの自治体から物笑いになるか、長い目で見てこの偶然に残った自然をぜひとも残したいということになるのか、この1年半の私たちの行動がかなりのウエイトを持っていると思います。」

高田「最近も大阪北ヤードの件があったが、スポーツ施設が欲しいと云うことを悪いことだとは云わないが優先順位の問題ではないだろうか」

花田「スポーツ施設について私たちの考えを述べておきたい。昨年私たちが要望署名をしたとき3つの要望を掲げた。1、この地を大阪府の緑地環境保全地域に指定すること 2、里山自然公園と活用を図ること 3、スポーツ施設が必要なら他のふさわしい場所に作ってください。というものであった。スポーツ施設に反対ではなく、信太山丘陵に作ることに反対しているのだ。和泉市には他に塩漬けの土地もいろいろあり、ふさわしい場所は他にもあるはずだ。」

「先ほどの議論で貧栄養を守るための手段として、まだ夢のような話であるが、ここは古代に須恵器の生産地で窯址がたくさん残っている。それを再現することができないかと考えている。専門家の西念さんの話では、1

回の窯に約10tの薪を必要とするそうだ。住宅地に近く解決しなければならない課題が多いと思うが・・・。」

本田「私がこどもたちと調査した南松尾校区はすでに自然がなくなってしまった。かつて、みかん畑や神秘的な池や孟宗竹の藪などはコスモポリスの企業タウンとなった。」

「この信太のこどもたちがここは大事なところだと思ってくれるよう望みたい。ただ、学校の授業としては制限もあるので、家庭や地域で情報の提供をお願いしたい。」

等々が討論された。

予定した時間が迫り、会場より6名に限って質問や意見がありました。

* 「小林議員の発言されたなかで、もう一つの赤字を解消するためにこの計画が復活したといわれたがそれは何か」「防衛庁の補助があることはこの計画にとって大きいウエイトを占める。しっかりこの点の対策が必要だ。」

* 「愛知万博の跡地開発についてはある程度やむをえないと思ったが、この北部市民のためのスポーツ施設を開発すると、自衛隊の中に入れない状況もある中で、和泉市は大阪府や近畿圏周辺のかたがた、国際的にも非常にはずかしいことになるのではないかと危惧するものですが如何お考えですか。」

* 「対象地は惣ヶ池遺跡を含んでおり、倭国の大乱に関わると云われている。国史跡黄金塚古墳だけでなく、池上曾根遺跡などとの連携も視野にいれて取り組んでほしい。」

* 「信太山丘陵300haと自衛隊の演習場226ha、さらに16haの広さについてそれぞれの関係を知りたい」「里山自然公園の運動は300ha全体を考えないのか。」

「歴史の偶然と云うことは理解できるが、もうそんな偶然に頼らず自衛隊に演習場を返還してもらって、自然を保全すると云うことまで進めてほしい。」

* 「保全のための取り組みを行政として実験してみるということはどうでしょうか」

などなど発言がありましたが、音響の不整備もあり十分対応ができず、最初の赤字の件で「土地開発公社」の赤字解消についての説明以外時間的に答えることができず、発言者には大変申し訳ございませんでした。

なお、300haの件で整理しますと、信太山丘陵約300haは、地理的な意味合いで、周辺の鶴山台団地、水道企業団所有地、その他民有地を含んでいます。今回、対象地の16haもその中に含まれます。自衛隊はそのうち約226haを占めていると云うことです。

また、今回私たちが提起しているのは、市有地の16haについてのことです。

3、集会終了後 「信太山に里山自然公園をを求める連絡会」 結成総会

集会後、連絡会結成総会を開きました。40名前後の方が参加していただきました。

総会では、「集い」までの経過やこれからの活動計画について等を報告し、規約を承認し役員が確認されました

新役員は以下の通りです。

役員

会長：山千代重榮（王子町在住）
副会長：西念秋夫（泉文連）
事務局長：花田茂義（FAクラブ）
会計：田丸八郎（FANクラブ）
会計監査：金谷 薫（大阪自然環境保全協会）

運営委員

菱木通剛 廣石雅信 島崎舜次 石井正彦
本田信美 渡辺憲二 堀崎光人 黒川小夜子
藤並行三 納家 仁 榊原鉄次 高田直俊
岡 秀郎 茶谷 任

今後の活動計画について

- ① 情勢を見ながら、運営委員会で提起したい。
- ② 見学会、観察会、学習会などの計画

信太の森FANクラブ 例会

1月9日（日） 10:00～12:00

ところ：信太の森ふるさと館

信太の森の鏡池史跡公園内（0725-45-0605）

内容：情報交換・学習

毎月第2日曜日開催

偶数月・調査・観察

奇数月・情報交換・学習

集会 アピール

—信太山に里山自然公園を—

国との等価交換により和泉市の市有地になった信太山丘陵の約16ヘクタールの土地利用については、平成17年以降、「北部地域公共施設整備事業」として「スポーツ施設建設」などが例示的に示されながら、市の財政健全化の中で事業は凍結されてきました。

今年度9月に発表された「和泉再生プラン」では、平成25年に凍結を解除し、5ケ年計画で事業に着手すると示し、平成23年度・24年度を計画の検討期間とするとされています。

この土地は、環境省の補助事業である「惣ヶ池湿地」や鶴山台市街地に隣接し、サギソウや猛禽類のオオタカをはじめ30種に及ぶ絶滅危惧種が生息し、生物多様性に富んだ信太山丘陵を代表する湿地や草原を含む一帯となっています。また、この地域は古代より人々の暮らしと自然が深く関わり、史跡や伝説などを育んできた場所であり、歴史学習・自然観察・見学会をはじめ、散策やジョギングなど学習・レクレーション・憩いの場として子どもから大人まで多くの人々が親しんできたところです。大阪大都市圏の市街地に隣接してこうした自然環境があることは他に例を見ず、和泉市が全国に誇る財産であると考えます。

この土地に大規模な人工的施設の開発が実施されるなら、自然環境は大きく変わり、生態系や植生に回復不可能な壊滅的打撃を与える事は火を見るより明らかです。

私たちは、本日「信太山丘陵を守る市民の集い」に結集し、大阪府を代表する生物多様性豊かな、かけがえのないこの土地に大型施設建設は避け、自然環境を保全・活用し、人々と自然の永くて豊かな関わりを伝える場所として、新たな文化創造の基地として（仮称）「信太山里山自然公園」の実現をめざして行動することを決議します。

平成22年12月5日

信太山丘陵を守る市民の集い2010

